

「メンター方式による初任者・若手教員育成モデルの構築」

調査の概要

◆課題認識

- ・教員が大量退職の時期を迎えている
- ・若手教員を大量に採用している

◆調査研究の目的

- ・効果的・効率的な若手教員育成モデルを構築すること
- ・大学との連携を推進することを通じて、初任者研修の充実を図ること

◆調査研究の方法

- ・担当者等会議、研修会等の実施→県内全域への効果的な若手教員育成モデルの共有化

◆調査研究校

- ・山口県山口市（小学校5校）
- ・山口県萩市（小学校3校、中学校1校）

◆現状

- ・県内学校数：小学校291校、中学校146校
- ・初任者：281名（199校に在籍、平成29年4月現在）
- ・初任での学級担任：241名（初任者の86%）

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①ポイントA

- ・これまで初任者教員の育成が各校任せだったものをチーム・組織による育成へ

②ポイントB

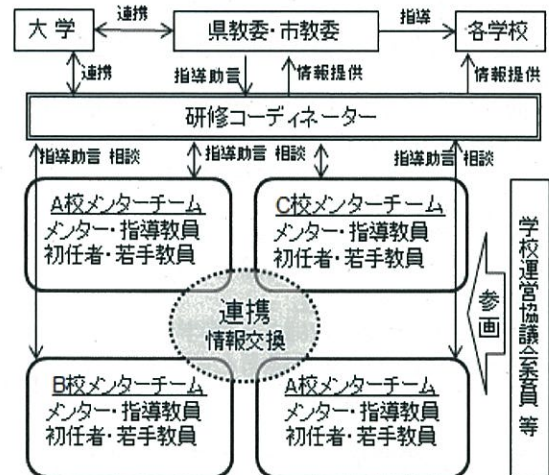
- ・これまで各校任せだった研修をより効果的な研修へ

③ポイントC

- ・これまで指導教員任せだった初任者教員の育成を全校体制で

◆成果

- ・これまで若手教員育成モデルが確立されていなかったが、効果的な若手教員育成モデルを構築することができた。
- ・これまで若手教員の育成方法が課題となっていたが、全校体制で若手教員を育成する校内体制ができた。



今後の課題

- ・効果的な若手教員育成モデルの更なる普及
- ・人材育成に係る教員の明確化
- ・メンターチーム研修会の時間の確保